

避難行動

避難場所の選択方法

浸水想定区域



ステップ 1 あなたのお家の位置は何色？

- 5.0m以上
(3階部分まで水没のおそれ)
- 3.0-5.0m未満
(2階部分まで水没のおそれ)
- 0.5-3.0m未満
(1階部分まで水没のおそれ)
- 0.5m未満
(床下浸水のおそれ)

ステップ 2 あなたのお家は何階建て？ (集合住宅の方は、住んでいる階数)

- 4階以上
- 1～3階
- 3階以上
- 1～2階
- 2階以上
- 1階

ステップ 3 あなたの家庭での行動指針

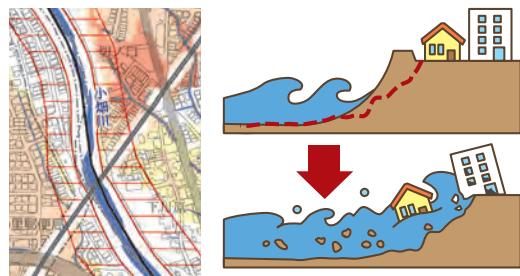
早期立退き避難

洪水や土砂災害時が発生した場合は、大変危険な状況になることが想定されます。
平常時から避難先と避難経路を決めておき、市から避難情報が発令された場合は早期に別の安全な場所に立ち退き避難を行いましょう。
避難情報が発令されなくても、自ら早めに避難行動を開始することも重要です。

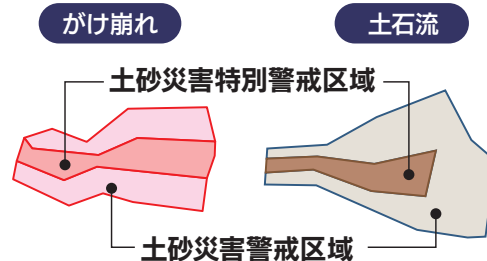
屋内安全確保 (垂直避難) が可能

自宅に留まり、想定される浸水深より高い居室で、安全を確保することができます。
P56の注意点を確認し、あらかじめ対策を行いましょう。

河岸侵食区域



土砂災害警戒区域等



被災前後の移動の注意点 (やむなく浸水の中を歩かなければならないとき)



- 長い棒を杖にして、安全確認をしながら歩きましょう。
- 傘は使わず、雨合羽を着用する。
- 軍手(手袋)を着用する。
- 非常持出品はリュックサックに入れて背負う。
- ひもでしっかり締められる運動靴をはきましょう。裸足や長靴は危険です。

氾濫による水は汚水が混ざっているため、むやみにさわらないようにしましょう。

高齢者や身体の不自由な人などは背負って避難しましょう。

深い浸水の場合マンホールに気付かず、吸い込まれてしまう場合があります。田畑への転落も注意が必要です。

切れた電線など、危険な場所には近寄らないようにしましょう。

幼児は浮き袋やベビーバスなどが便利です。

水面下には、側溝や障害物などもあり危険です。

水深が浅い場所でも流れが速い場合は、非常に危険です。無理をせず救助を待ちましょう。

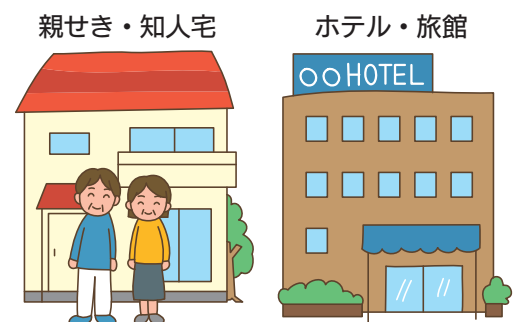
歩ける深さの目安は大人で50cmまでです。それ以上は救助を待ちましょう。

早期立退き避難

「早期立退き避難」は、市から避難情報が発令された場合に早期に自宅以外の安全な場所に避難することです。避難先は、避難所だけでなく、縁故避難先や旅館・ホテルも選択肢となります。

このうち、縁故避難は、水害発生時に自宅が浸水の可能性がある場合に、浸水の可能性がない親せきや友人の家に事前避難することをいいます。

災害時にどの避難先にどのような経路で避難するか、平常時から検討して決めておきましょう。



垂直避難

垂直避難とは、自宅や近隣の建物の上階へ避難することです。計画的に行うほか、災害発生時に立退き避難するよりも安全であると判断できる場合の避難の選択肢にもなります。

